

## 総合診療部に勤務して

歯科外来 看護師長 山田 秀子

歯科総合診療部に勤務して、2年8ヶ月になりました。少し総合診療部の全体像を説明したいと思います。12月現在で歯学科5年生55人、研修医47人（常時24人）が臨床実習及び臨床研修に励んでいます。受診される患者様の数に波はありますが07.11/1～11/30の1日平均数を見てみましょう。・予診（新患数）約6.0名・学生患者数約20.2名・研修医患者数約48.3名・手術件数（歯周手術、抜歯など学生、研修医合わせて）約1.9件という平均値になります。

高血圧症、糖尿病、心臓病など患っている方や、車いすの患者様など様々な方が来院されます。全ての方が安心・安全に治療が受けられ、また臨床実習、臨床研修が出来るようにと心がけています。学生の手術前には、一緒に準備し、説明を行い確認します。

そして日々の診療に必要な器具、器材の準備、点検を行うと共に、歯科材料の管理を行っています。歯科ユニットのトラブルも多いです。たとえば「水が出ませーん」→「水のコックが開いていませんでした」また「タービンが動きませーん」→「しっかり接続されていませんでした」感染対

策の指導も欠かせません。「滅菌器具ケースの中に、直接手を入れてしまいました！」→「ケース全部交換しました」

最近のことですが、総合診療部受け付けで、心臓発作を起こされた患者様や、内服薬の副作用による発作を起こされた患者様もおられました。緊急対応に緊迫の場面もあります。“いつ何が起るかわからない”と思うときもあります。

07.11/21～11/22は、群馬県高崎市において行われた全国国立大学附属病院感染対策協議会（少し長い名称ですが）に出席してきました。その協議会の内容と私の感想を述べたいと思います。協議会は、各大学病院の院内感染対策の諸問題を合同で解決策を考えようと発足した組織です。全体会で各分会と各病院の活動報告があります。そして質疑応答され協議されます。その中で、医療スタッフの役割という報告で深く心に残った言葉がありました。それはICTチームのあり方について、バーナードの言葉を引用し、チーム医療の大切さを訴えた内容でした。「共同の効果は、参加者の能力を加算するのではなく、この世に新しい命を生み出すことである」と。



歯系感染対策 WG は、院内感染対策委員会の組織下にあります。その WG そのメンバーの一員として、今後の歯科外来での果たす役割の示唆を与えられたと思えました。

歯科医師作業部会の内容としては、医学部附属病院と歯学部附属病院の統合や 7:1 看護体制の導入で、歯科外来での看護師の数が減少の傾向にあります。感染対策の中心的役割である看護師の少なくなる状況で、感染対策の充実、教育の在り方も今後の課題である等の意見が出されました。

患者様の全身管理や生活習慣病の予防の指導を役目と心得ています。そこで私の常日頃心がけて行っている事を、少しお伝えしたいと思います。一つ目は、朝起きたらすぐに水か白湯をごくごく飲みます。もう20年近く続けています。たまには風邪も引きますが、軽くすんでいるのは、水のおかげと信じているところです。1日2L 飲むとよいといわれているようですが、水分制限のある人は無理ですね。二つ目は、プールで泳ぐこと。“プールの底に足をつかないで30分”あとはサウナに入ってリラックス。その後の爽快感はたまりませんね。そのほかには、チマチマと好きな事をやって楽しんでいます。皆様とご一緒に健康寿命を伸ばしていきたいと思えます。



右から。感染対策担当薬剤師・田村さん、感染対策担当医師・田辺先生、感染認定看護師・内山さん、口腔顎顔面外科・高木教授、感染対策歯科外来担当・山田



今年の干支「子」を作りました

